

岡崎市議会議長 様

支出番号	2
------	---

会派名 自民清風会
代表者名 磯部 亮次

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和7年3月27日提出

活動年月日	令和6年4月16日（火）～18日（木）	
氏名	加藤義幸 築瀬 太 鈴木静男 荻野秀範 杉浦久直 廣重 敦	
用務先 及び 内 容	1 4月16日	用務先 鳥取県 倉吉市
		内 容 レトロ&クールツーリズムによる観光の取組について
	2 4月17日	用務先 島根県 安来市
		内 容 観光交流プラザについて
	3 4月18日	用務先 鳥取県 鳥取市
		内 容 スマートエネルギータウン構想について
	4 月 日	用務先
		内 容
備 考		

政策調査視察調査報告書

報告者：廣重敦

視察日	令和6年4月16日（火）	視察地	鳥取県倉吉市
視察内容	レトロ&クールツーリズムによる観光の取組について		
視察者	加藤義幸、築瀬太、鈴木静男、杉浦久直、荻野秀範、廣重敦		

視察目的：倉吉市では、**白壁土蔵群**に代表される**レトロな町並み**と、**倉吉で生産されるフィギュアや、倉吉が舞台のモデルとされているキャラクターバンドコンテンツ「ひなビタ♪」**に代表される**クールジャパン**の素材を融合・調和させることにより、持続的な観光誘客と地域活性化につなげる『**レトロ&クールツーリズム**』の取り組みを進めている。



これが**第3回ジャパン・ツーリズム・アワードの国内・訪日領域で地域部門賞を受賞**しており、その取り組みを学び、本市の参考とする。

開催場所：倉吉市役所

説明者：倉吉市議会 福谷議長、観光交流課 藤井課長、竹田係長、議会事務局 枡田氏

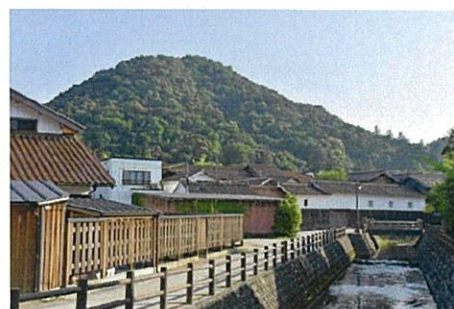
タイトル：レトロ&クールツーリズムによる観光の取組について

1. 倉吉市の概要

- ・倉吉市は、**鳥取県中部**に位置し、県中部の玄関口としての役割も持つ。
- ・面積 272.06 km²、令和6年3月31日時点での人口 44,004 人、世帯数 20,499 世帯。
- ・市内には国の**重要伝統的建造物群保存地区**に指定されている打吹玉川地区をはじめ、江戸時代末期から戦前まで建てられた家屋や土蔵が多く残り、**山陰の小京都**とも言われている。
- ・市南部に位置する関金温泉は、開湯 1300 年の歴史を有し、**山陰屈指の古湯として世界有数のラジウム泉**を誇る。
その無色透明無味無臭のお湯は、古くから「**白金の湯**」と呼ばれ、日本名湯 100 選にも選ばれている。



- ・周囲は三朝、はわい、東郷といった温泉地に囲まれ、**世界遺産登録運動を展開している三徳山や岡山県の蒜山高原にも隣接する自然環境に恵まれた美しい地方都市**。
- ・倉吉市では、国内外の方へよりわかりやすく魅力を発信するため、PR 映像の制作を行っているが、**観光 DVD としては異色のショートフィルム**となっている。



2. レトロ&クールツーリズムについて

(1) これまでの倉吉観光

- ・年間 60 万人以上が来訪する**白壁土蔵群が観光の中心**で、江戸、明治期の建物が多く、どこか懐かしさを感じる落ち着いたレトロな街並みは、貴重な観光資源となっており、平成 10 年に文化庁から重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。
- ・課題として、白壁土蔵群の**平均滞在時間が 2 時間以内**と短く、**周辺観光スポットへの回遊や観光消費につながっておらず、宿泊先も倉吉市内は 3 割にとどまっている。**

(2) レトロ&クールツーリズムに至った経緯

- ・平成 26 年に世界的なフィギュア製造道路メーカー(株)グッドスマイルカンパニー(GSC)の倉吉工場誘致に成功、彼らの**ポップカルチャーの強みを活かしたまちづくり**スタート。
- ・平成 27 年に GSC 製フィギュア約 600 体を展示した**フィギュア博覧会を倉吉博物館で開催**。…右写真
1 ヶ月の会期中に全国から約 2 万 5 千人が来場。

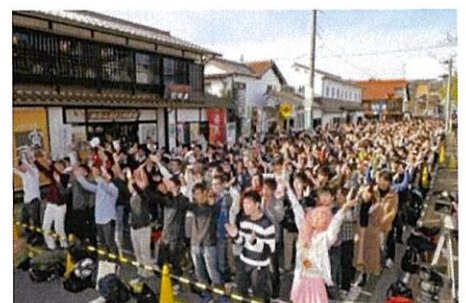


- ・そんな折、(株)コナミデジタルエンタテインメント音楽配信コンテンツ「ひなビタ♪」のインターネット上の架空都市**倉野川市**と倉吉市が似ているとファンの間で話題になり、国内外から訪れる方が急増。
- ・平成 28 年 4 月 1 日に**架空都市倉野川市との姉妹都市提携**を発表。…右写真
メディアにも多数取り上げられ**全国的な話題**になった。
- ・グッドスマイルカンパニー、「ひなビタ♪」、倉吉市 3 者でレトロ&クールツーリズムによる新たな倉吉の魅力づくりを進めることで合意。



(3) レトロ&クールツーリズムの実績

- ・くらよし桜まつりで声優トークショー、ひなビタ♪グッズ販売等を行い、**全国から延べ 6 千人**が来倉。
- ・くらよし紅葉まつりを目前に鳥取県中部地震が発生、延期も検討したが、**ファンの後押し**で、実施可能なプログラム（ショップ、ちくわメニュー等）を開催。震災発生から 3 週間後にも関わらず、2 日間で延べ 1 千人もの人が来倉。…右写真



- ・**倉吉ひなビタ♪応援団**を結成、地域が一体となり、ひなビタ♪と連携した**新たな魅力づくり**を検討実施。
(80 以上の店舗、団体が加盟)
- ・**キャラクター誕生日イベント**を中心に、地元主体でファンのおもてなしを企画。…右写真
リピーターを増やすことで、利益に繋げていく。



- ・ふるさと納税制度を活用した「ガバメントクラウドファンディング」による「ひなビタ♪デザインマンホール蓋による周遊促進プロジェクト」が開始 12 時間で目標金額 100 万円を達成。…485 件/4,495,100 円
- ・マンホール蓋の製作設置を通し、白壁土蔵群とその周辺エリアの回遊性を高め滞在時間の延伸を図る。…右写真

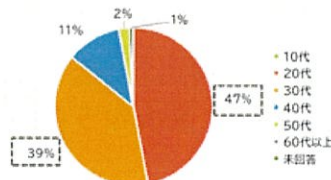


- ・『フィギュアのまち倉吉を創る会』を立ち上げ、まちなかミュージアムとして、市内 12 ヶ所の施設でフィギュア展示。
- ・令和 5 年度は、ひなビタ♪10 周年事業を展開。…右写真
コナミがキャラクター山形まり花の銅像を制作、倉吉市に寄贈。
ふるさと納税返礼品としてキャラクターねんどろいどを追加。

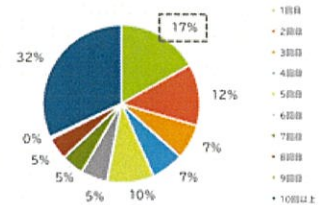


ひなビタ♪ファンってどんな人？

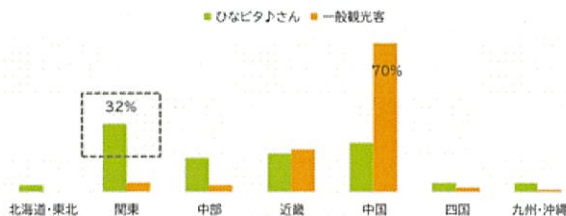
①20・30代の若い世代が8割以上、
男性が9割



②リピート率83%



③遠方からの高い来訪割合



④滞在日数2.3倍／観光消費額1.6倍



⇒高い経済効果が期待される

(4) レトロ&クールツーリズムの成果

- ・これまで倉吉を知らなかった、若い新たな倉吉ファンの獲得。
- ・長期滞在や地元での積極的な消費による経済効果。
- ・地元事業者とのコラボ商品の展開。…右写真
- ・ファンへのおもてなしの取り組みが生まれ、住民との交流促進が図られ、ファンの方との絆が生まれることで倉吉を第二の故郷として何度も訪れるリピーター多数。
- ・ひなビターン♪として、1ターンするファンが 20 名以上出現するなど、「交流人口」、「関係人口」を超え、「移住」にまで発展している。

広がりを見せるひなビタ♪関連商品！



(5) 今後の展望

- ・「レトロ&クールツーリズム」をさらに進展させ、コンテンツやサブカルチャーを活用して、
○観光客の周遊の促進
○再来訪の促進

につながる事業を実施する。

3. 質疑応答…主なもの

- ・レトロとクールは相反することもあると思うが、**イベントや仕掛けは誰が行ってきたのか？**
→役所のノウハウでは難しく、**国内外で大きなイベント経験を持つグッドスマイルカンパニーの関連会社**がマネジメントを行っている。
- ・ひなビタ♪原作者と倉吉市との関係は？
→**中学生の時に放浪癖**があり、その時の**倉吉の風景が記憶に強く残っていた**とのこと。
- ・アニメなどではモデル場所が聖地化され、観光客が訪れるが、そのような**スポットの特定**はできるようになっているのか？
→原作者が**倉吉市のお気に入りの風景を写真に撮って作画に使っている**ので、酒屋や参道などがまんま描かれている。
- ・観光消費の内訳は、グッズ、飲食、宿泊、どのようになっている？
→**イベント時はグッズの売り上げが多く、普段は地元の銘菓中心**。
宿泊はビジネスホテル中心のため、**旅館に泊まろう企画**を展開中。
- ・俗に言うオタクの若者が大勢押し寄せることに対する、市民の理解や協力は初めから得られたのか？
→もちろん**反対意見もあるが、現実の経済活動につながると理解**されやすい。
伝建地区にこんなに若者が！という驚き、**滞在時間も長いし、消費額も大きい**。
また、**オタクの人たちはすごく礼儀正しい**。右側に一列に並んでくださいというと素直に従ってくれる。
- ・ひなビタ♪のキャラクターとライブイベントとの関係は？
→それぞれの声優が歌ってステージを展開し、CD も出している。
- ・フィギュアミュージアムは市とグッドスマイルで運営しているのか？
→グッドスマイルカンパニーはじめ、地元の老舗メーカー等の協力の下、**(株)円形劇場**が運営、**フィギュア等の展示物はどこのものでも受け入れる**。



5. 所感

(廣重)

- ・現在の本市がまさにレトロ（大樹寺、伊賀八幡宮、瀧山寺）とクール（東海オンエア）を観光の両輪にしている部分があり、大変多くのことを学ぶことが出来た。
- ・特に**サブカルチャーのチカラのすごさ**、フィギュアの博覧会で全国から約2万5千人が来場する、音楽配信コンテンツの舞台と風景が似ているという噂で、これまた全国から多くの人々が訪れる。
本市でも同様な現象は見られるが、交通の利便性は決して良くないというかある意味**辺鄙なところであるにも関わらず、これだけ誘客するチカラ**は本当にあなどれない。
- ・次から次に、新しいイベントをプロモートしているのが、豊富なイベント経験を持つグッドスマイルカンパニーの関連会社ということで、これはうらやましい限り。

本市にもイベントを運営する会社はあるものの、**プロモーション**という観点では必ずしも強力なパートナーが居るわけでもなく、**探す&育てる**ことが求められる。

- ・またサブカルチャーの愛好者、いわゆる**オタクと呼ばれる人たちは、共通の話題で意気投合**するため、現地で友人の輪が広がり、それがリピーターにつながるのも納得。結果、交流人口→関係人口→移住（ひなビターン♪）という良い流れが生まれており、本市でも**オタクを呼び込むコンテンツ（お寺、神社、駅）開発**が必要。
- ・そもそものきっかけが、ひなビタ♪の原作者が中学生の頃、倉吉市を訪れその**街並みを痛く気に入ったところから縁が始まっており、そういった通りや建物の整備や保存の大切さ**を教えてくれた。
本市にもそういった**歴史的建造物**が少なからずあるため、そこに至るガイドも改めて考える必要がある。
- ・本市の課題でもある回遊を促すことで滞在時間を長くする、市内の宿泊増につないでいくということには成功しており、**滞在を楽しんでもらうための取り組み**について、コンテンツや場づくり等**まだまだやれることがある**と感じた。

【同行者の所感】

加藤・倉吉市の観光の中心は、平成 10 年、重要伝統的建造物群保存地区に選定された白壁土蔵群であり、年間 60 万人が来訪する。しかし平均滞在時間が 2 時間以内と短く、周辺観光スポットへの回遊や観光消費につながらず市内での宿泊者も観光客の 3 割にとどまり周辺温泉地への宿泊が 6 割を占めておるあたりが、課題となっている。

そこで打ち出したのが、レトロ&クールツーリズムである。平成 26 年に(株)グッドスマイルカンパニーの日本初の倉吉工場誘致に成功。そこから、グッドスマイルカンパニーとの連携によるまちづくりがスタート。また、音楽配信コンテンツ「ヒナビタ♪」といったようなクールジャパンの素材を融合・調和させることにより、観光誘客と地域活性化につなげている。

フィギュア博覧会等様々なイベントを実施して新たな倉吉ファンの獲得に乗り出した。特筆するのは、20 代 30 代の来訪者が 8 割以上、リピート率 83 パーセントという点だ。

地元事業者とのコラボ商品の展開等で経済効果もあがり、住民との交流など活性化にもつながっている。今後も、観光客の周遊の促進、再来訪の促進に繋がる事業を積極的に展開するようだ。

本市においては、家康観光と東海オンエアの聖地巡り等で誘客しているが、今のうちに次なる誘客につながる、スポーツ・文化等を核にした観光振興も図るべきと考える。

築瀬・倉吉市のこれまでは観光客も 60 代以上のご夫婦などが主流であったが、フィギュア企業のグッドスマイルカンパニーの誘致からレトロアンドクールが始まった。中国に工場をと考えていた企業が倉吉市に進出したのは大きかった。誘致からしばらく経って、ひょんなことからコナミの「ひなビタ♪」ゲームの景観によく似ているということが話題になった。そこでコナミを介して原作者と連携を図ることができたとのこと。

まず、企業誘致から聖地巡礼観光のヒットに繋がっていることに驚いた。まさに三方良し、四方良しの事例ではないだろうか。

ゲームの中の架空の都市「倉野川市」と実在の倉吉市とが姉妹都市提携をし、おおいに

話題になった。(4月1日発表でエイプリルフールネタかと?いや、マジです。と、たいへん話題になった)など、仕掛け作りもコナミなどその世界のプロのプロデュースによるもので成功しており、やはり観光政策はプロフェッショナルな企業との連携が欠かせないのではと感じた。

本市においてもサブカル観光資源としては「東海オンエア」が居るが、観光伝道師として任命しているだけでは、十分にその価値を活かしているとは言えないのではないかな。

鈴木・倉吉市の観光は年間60万人以上が来訪する、白壁土蔵群が中心となり、中国・関西地方からの乗用車を利用した中高年夫婦・友人などの割合が高く、平均滞在時間が2時間以内と短い。また、白壁土蔵群以外のスポットへの回遊や観光消費につながってなく、宿泊先が市内3割に留まっている課題が本市と類似している。

課題解決に繋がるレトロ&ツーリズムの企画は公民連携の良い事例である。レトロな街並みと世界的なフィギュア製造メーカーと音楽配信コンテンツを融合・調和させた国内外から継続的な観光客誘致と地域活性化につなげ新たな魅力発信とを実現していることは素晴らしいと感銘した。

本市としても徳川家康や八帖みそのみならず市内の製造業や飲食店にもスポットを向けて、東海オンエアーにとコラボをした音楽配信も含めた連携を検討してはと提言する。

杉浦・倉吉市の取り組みの基礎となっているものは、まずは、伝統的建造物群の価値を認識し、しっかり保存してきたことがある。それが、偶然ひなビタの作者の感性と一致し、作品に取り入れられ、それが結果として倉吉市との関連が発見され、来訪につながるようになった。以前別で視察に訪れた島根県の奥出雲町では、伝統的なたたら製鉄と農業の関わりなどをしっかりとストーリーとして活用していたことが、監督の感性と一致し、ドラマのロケ地としての誘致にも繋がったとのことであり、本市としても、しっかりとこの岡崎市の持つ歴史、風土を活かしたまちづくりを進めることが重要であると考えている。

また、価値観の多様化が進んでいく中で、アニメ、ゲーム、映画、ドラマ、YouTuberなど、どのコンテンツがウケるのかといったことは行政で考えることではないと考えるが、盛り上がっているコンテンツを利用していくことは重要である。そういった意味では、本市に関連するこういった作品が作られているかを情報収集して、集約し、情報提供できる取り組みは行政として必要かと考える。

荻野・以前は倉吉市も①平均滞在時間が短い②周辺観光スポットへの回遊や観光消費につながっていない③宿泊先に市域以外が多いなど、本市の現状と同じ課題を持っていた。

世界的なフィギュア製造メーカーが倉吉市に工場誘致をしたことを、きっかけに企業との連携によるまちづくりがスタートした。

「白壁土蔵群」に見るレトロな町並みとフィギュア・音楽配信コンテンツといったクールジャパンの素材を融合・調和させることにより、国内外からの誘客と地域活性化につなげている。

本市においては、日本国内でただ一か所しかない徳川家康生誕の地をもっと売り出し、

関連施設への巡回手段などを徹底的に充実させるべきであり、本物による観光でないと一時的なものになり、事業者への負担を強いることになる考える。

政策調査視察調査報告書

報告者：廣重敦

視察日	令和6年4月17日（水）	視察地	島根県安来市
視察内容	観光交流プラザについて		
視察者	加藤義幸、築瀬太、鈴木静男、杉浦久直、荻野秀範、廣重敦		

視察目的：車中心の生活の定着、少子高齢化や若者の流出により**中心市街地が空洞化**、安来駅は山陰本線の主要駅でありながら夜間は無人駅になるなど**安来市の玄関口**としての役割を果たせずにいたのを、**観光交流プラザとして拠点整備**。
市産材の杉、ヒノキを使い JR 西日本初となる木造による合築施設として 2008 年 4 月開業。
観光と情報発信の拠点として、**市街地活性化のコア施設としての取り組み**を教えていただき、本市の参考とする。



開催場所：観光交流プラザ アラエッサ♪YASUGI

説明者：安来市議会 永田議長、観光振興課 加藤課長、福島係長、観光協会 前田事務局長
議会事務局 堀江次長、荒川氏 宇山氏

タイトル：観光交流プラザについて

1. 安来市の概要

- ・ **安来市は島根県の東部、鳥取県との県境**に位置し、東は米子市・南部町、南は日南町（以上鳥取県）・奥出雲町、西は松江市・雲南市に接している。
- ・ 面積 420.93 km²、令和 6 年 3 月 31 日時点での人口 35,625 人、世帯数 14,267 世帯。
- ・ 南部は中国山地に連なる豊かな緑に覆われ、そこを源流として中海に注ぐ飯梨川、伯太川全流域が市域に含まれ、下流域に形成された**三角州には広大な耕地**が広がり、**上流域には豊かな森林**と県東部の水瓶でもある布部ダム、山佐ダムがある。
- ・ 神代の昔、スサノオノミコトがこの地に来られ「吾が御心は安平（やす）けくなりぬ」といわれたことから「安来（やすぎ）」というようになったと伝えられている。（出雲国風土記から）
- ・ **安来節、ヤスキハガネは全国的、世界的に知名度も高く**、こうした歴史、文化、産業にちなんだ地名を大切な資産として**市の名称として選定**されている。
- ・ 江戸時代には松江藩の支藩として広瀬藩、母里藩が置かれ、飯梨川、伯太川を利用して物資を運搬し、安来港が物資集積の積出港で栄え、**和鉄や蔵米の集散地として発展**。
- ・ 明治 22 年の市制町村制施行により、この地域は能義郡として 2 町 14 村となった。
- ・ 戦後の市町村合併により「安来市」「広瀬町」「伯太町」の**1 市 2 町で圏域市町**として生活、文化など連携した施策を行いながら、平成 16 年 10 月 1 日、**新生「安来市」**として合併。

2. 観光交流プラザ アラエッサ♪YASUGI について

(1) アラエッサ♪YASUGI の概要

- ・ 駅は単なる鉄道駅の機能だけでなく、**人が集まり情報が集積する機能**を持ち合わせており、市行政のサテライト窓口として、**郷土文化、伝統、歴史の発信拠点**でもあることから平成 20 年**木造 2 階建施設**として供用開始。
木造による駅と他施設との合築は、JR 西日本管内では初。…右写真



(2) 1 階の主な施設

①多目的交流ゾーン

- ・ 55 インチのインフォメーションシステム…右写真
観光情報、行政情報の提供、企業広告、宣伝、**テロップ**により**瞬時に情報提供が可能**。
- ・ レンタル BOX（期間限定商品陳列棚）の設置…左下写真
商売の観点ではなく、**地域に溶け込み、手づくり、オリジナルなモノ**を展示することによる、**人々のコミュニティづくりの醸成**。
周辺では、ポスター掲示、物品等の展示据え付けも実施。



②観光案内コーナー（総合案内所）…中下写真

- ・ イエローバス（生活バス）の定期券、**プレイガイド的業務**、他。
- ・ 観光案内、観光情報の提供、安来市の PR 活動など。

③特産品等販売コーナー…右下写真

- ・ **訪れる人々の土産や、地元の方々の話題にのぼる商品構成**。
どこにでもあるモノやどこでも求められるモノは極力避け、「**ここでしか**」を意識。
- ・ **安来ならではの、豊かな特産品を活かしたもの、伝統技術、文化の薫るもの**。
わざわざ買いに来ていただけるような、オリジナル商品の展開、**アンテナショップの機能**も付加。
- ・ 情報発信型（現地工房などへのナビゲーター的）**売り場づくりやコミュニケーションを意識した朝市の実施**。



④その他

- ・ コインロッカー、公衆トイレ、授乳室、レンタサイクル、他。

<施設利用状況>

(単位：人)

	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
住民票・証明	2,138	1,956	1,620	1,511	1,009		
バス関係	2,081	2,097	2,040	1,913	1,346	1,289	1,252
その他	1,511	2,271	2,373	3,928	538	474	1,458
観光案内等	18,917	20,967	15,605	16,729	8,830	8,585	13,309
売店	34,563	34,793	33,741	33,020	15,562	18,309	23,113
合計	59,210	62,084	55,379	57,101	27,285	28,657	39,132

※その他はレンタルBOX、レンタサイクル、一時手荷物扱い

(3) 2階施設

①多目的利用スペース

- ・一般の皆さんの作品、各種団体、幼保～高校までの作品展示。
- ・**集会、講演会、サークル活動、市民活動**など多目的に利用が可能。
- ・ミニコンサートの開催 等。

(4) 利用者の声（評価・要望）

- ・安来市の特徴がよく表れている展示内容や**特産品販売コーナー、休憩ができるカフェコーナー等**については評判がいい。
- ・ホームにエレベーターが無いため、特に**高齢の方や障害のある方からエレベーターの設置を求める声**が多い。

(5) 課題と今後の展開

①課題

- ・オープンから15年以上が経過し、**施設の老朽化が進み、維持管理コストが増えてきている状況。**
 - ・また、限られたスペース内に観光協会事務局を含む様々な機能を配置しているため、**年々手狭になってきている。**
 - ・**外国人観光客が増加する中で、各種表示の多言語化、翻訳機器などの整備がますます必要になってくると考えられる。**
- 併せて、ホームにエレベーターが無いことに対し、旅行者からの苦情も増えている。

②今後の展開

- ・エレベーターに関しては、JRと市で継続的に協議を行ってもらっている。
- ・市と観光協会が連携し、**市民の交流拠点としての魅力向上や満足度アップ**を図り、**上記課題に対応**しながら、さらなる観光誘客につなげていく。

3. 質疑応答…主なもの

- ・岡崎市の観光協会は駅から離れたところにあるため、うらやましいが、**一般社団法人にしたメリットは？**
→任意団体時は補助メニューが限られていた。
また、**自主事業を積極展開するため、組織もキッチンと整えたい**と考えていた。



- ・安来市単体ではなく、観光資源を共有する山陰の取り組みとの関りは？
→**中海、宍道湖を囲む5市は圏益DMO「山陰まんなか」で連携しており、新型の特急「やくも」がつなぐエリアとしてキャンペーンを実施中。**
また、**雲南市、奥出雲町と鉄の道文化圏を構成し、観光面でもツールを共有。**
- ・レンタルボックスの使われ方の事例は？
→**大きな展示物は無理だが、個展とまでは行かないが個人で作品を見ていただきたい方などが利用、出店物の販売も可能にしている。**
自己PRの場でもあり、**作品を観ながら電車の待ち時間を過ごしてもらえ。**
上手な使い方としては多目的ホールと連携することで、**ホールで教室を行い、そこで製作した作品をレンタルボックスで展示する**という事例もある。
- ・JRとの共有部分や費用分担は？
→**JRとの棲み分けはホームを境にしているが、役務室は市の施設側にあり、貸し出す形になっている。維持管理費は応分。**
ちなみに観光交流プラザの昨年の維持管理費は720万円、光熱費は500万円。
- ・修繕に向けた積立はおこなっているのか？
→**まだ大きな補修計画はない。故障対応は随時実施している。**
- ・乗降客の割合はどうなっている？
→**観光客の方が多い6:4、外国人はほぼ列車だが、通勤はほぼ車を利用しており、年間50万人以上が訪れる足立美術館も個人利用の車が多い。**
- ・駅舎のバリアフリー化（エレベーターの設置）は？
→**外国人客は大きなスーツケースを持ち運ぶため不満も多い。**
足立美術館からも要望されているが、**一日平均最低2,000人の乗降客のハードルは優しくない。**
- ・15年前は先進的な取り組みだったと思うが、やっておけばよかったと思う対応は？
→**駐車場のスペースが取れていない。**
一時的な利用も難しく、**イベント時は搬入等含めて厳しい。**
ここで物販も行っているが、**一時的な保管スペースもない。**

4. 所感

（廣重）

- ・施設には関連する（必要な）機能が全て備わっており、**コンパクトにまとまっている反面、説明の中にもあったように手狭感は否めない。**
- ・市産材の杉、ヒノキをふんだんに使っており（右写真）**ぬくもりのあるデザイン的にも素晴らしい施設であるが有効スペースという観点ではもったいない部分もある。**
- ・この地域特有のものとも言えるが、**湖やたたらといった観光の強みを広域連携でツールを共有しながら取り組む手法は、本市としても松平家～徳川家、三河武士を武器に周辺の市町と積極的に行うべきと感じた。**



- ・ **21 年連続日本庭園No.1 の足立美術館**を抱え、安来駅からも 1 時間に 2 本のシャトルバスが発着しているのを見ると一見うらやましいが、そもそも**鉄道で安来市まで来ることが大変な部分**もあり、どうしても車がメインの交通手段になっている。
ここに広い駐車場があれば、観光交流拠点としてもっと有用であったのが残念。
本市も**観光交流のセンターをどこに構えるのか**は、観光都市を目指す上で喫緊の課題である。
- ・ 全国の観光地がそうであるように新型コロナが公共交通に与えたダメージは大きく、それが戻り切っていない印象も強い。
本市もそれは同じであり、今回の視察で得た**駅を交流の場としていろいろな機能を持たせて、公共交通の利用を増やす手段**としてアイデアを出していきたい。

【同行者の所感】

加藤・観光交流プラザ アラエッサ♪YASUGI は、中心市街地活性化基本計画に基づき、平成 20 年 3 月に完成、木造による駅と他施設との合築は、JR 西日本管内では初めての施設。木造作りで、温かみのある施設になっている。
観光交流拠点施設として、世界的に有名な足立美術館への玄関口としての機能も有している。安来市の特徴がよく表れている展示物、休憩が出来るカフェコーナー等、好評なようだが、ホームとを繋ぐエレベーターがないのが不評のようだ。ここを訪れる観光客等は、マイカーが主流のようだが、JR とタイアップして、より使いやすい駅にすれば、この施設自体ももっと賑わいを見せるであろう。

築瀬・安来駅の駅前再開発の一環として H20 年 4 月に安来市観光プラザ竣工したとのこと。しかし安来駅は 2000 人～3000 人の乗降客でいまだバリアフリー化できていないなど駅自体の開発が望まれるところである。そのこともあってか駅の利用者としては観光客の比率が高い。通勤などは自家用車利用が多いとのこと。利用者数が増えるのを待っているより、バリやフリー化を中心に駅舎の改築を進め利用者数の増加を狙うなど積極策が望まれるところであろう。

施設の課題としては駐車場が少なく、車での来訪者の利便性が低いとのことで、駅利用者以外の使い勝手が課題ではあるが駅と併設の観光プラザのメリットの方が大きい。本市の観光協会は駅から市役所からも遠くにあるが、やはり駅併設の観光協会の立地が望ましいと感じた。

観光協会と観光プラザが一体化していることで情報収集も発信も円滑に行われており、例えば民芸運動の中心的人物である河井寛次郎先生の出身地でもあるので、民芸などの創作活動の展示などの情報発信としてのレンタルBOX やショップが地域のコミュニティづくりと観光客と地域とを結びつける手助けとなっていると感じた。

鈴木・安来駅は JR 西日本では初となる木造による駅と他施設との合築となっていて、地元木材をふんだんに使用して居心地の良い空間づくりを意識した施設内部は構造的にも日本の伝統的な木組み工法を用いて、耐震性が高くダイナミックで美しい空間を演出している。また施設の素晴らしさと観光・交流拠点としての施設機能も有している。カフェのくつろぎスペースもあり利用者に好評であるが、ホームにエレベーターがなく

高齢者の方や障碍のある方から設置の意見があるようで残念である。

市民の交流拠点としての木造駅舎は大いに参考にして公共施設に今以上に木材利用を促進していくべきと提案したい。また、バリアフリー化は必須であることが改めて痛感した。

杉浦・安来市の観光交流プラザは、中心市街地活性化を目的に、JR 西日本の安来駅と、観光・情報発信拠点、市民交流施設の複合施設として、市内産の木材をふんだんに使った建物で平成20年に開業した。コロナ禍もあり、近年の利用者数の増減は激しいが、人口が、本市の10分の1であることを考えると、利用者は決して少なくない。ただ、駅前の賑わいができているかと言われれば、そうは感じなかった。駅のすぐ裏は工場であり、駅のすぐ前は国道9号線、線路と国道との間は狭く、中海も直近である場所で、余裕な場所がないこともあるが、駐車場が少ないことはともかく、駅から歩いてみようという気にさせにくいような駅前の作りに感じた。車中心から歩行者中心にしていくことで、施設の利用者、駅利用者も増えていくのではと感じた。

本市もこれから東岡崎駅の再開発、また中岡崎駅の総合駅化も進めていくべきところであるが、複合施設の利便性、市内産材の利用等、見習うべきところを見習いつつ、歩行者の回遊性を待たせたまちづくりと、公共交通の利便性向上など、周辺も含めた大きなまちづくりの中で進めていくことが重要であると感じた。

荻野・市内外への情報発信・交流拠点として周辺市街地活性化のための施設として平成20年3月完成、4月供用開始した。平成30年度までは安来市が直営で管理し平成31年度からは安来市観光協会が(指定管理者)管理をしている。

施設は木造2階建てで、JR 安来駅と併設され多くの木材が使用されている。

多目的スペースでは市民団体の集会や後援会、サークル活動など多目的な利用がされている。

本市としても、現在、東岡崎の駅ビル改築工事が始まっており、駅という公共交通の中心でありそこで市民が利用できるようなスペースを検討する必要があるのではないか、と考える。

政策調査報告書

報告者：鈴木 静男

視 察 日	令和6年4月18日(木)
視 察 内 容	スマートエネルギータウン構想について
視 察 者	加藤 義幸、築瀬 太、荻野 秀範、鈴木 静男

＜鳥取市の概要＞

鳥取市は、鳥取県の東部、因幡地方に位置する市。千代川流域に広がる鳥取平野の東部に形成された鳥取城の旧城下町である。鳥取県の県庁所在地及び人口が最多の市で、中核市に指定されている。

県西部の中心都市である米子市に対して、当市は県東部の中心都市であり、当市を中心として鳥取都市圏を形成している。

面積：765.31km²

人口：182,109人



＜スマートエネルギータウン構想事業の目的・概要＞

目的：平成23年度策定した「鳥取市スマート・グリッド・タウン構想」の知見を踏まえ、産学金官の連携のもと「エネルギーの地産地消」の推進を通じて成長分野である環境エネルギー産業を一層振興し、地域経済への具体的な波及効果を創出することによって地方創生を実現するため、平成27年8月に策定した。

目標：■「エネルギーの地産地消」を推進
■地域内資金循環の活発化
■地方創生の推進

効果：■地方創生(防災的な課題解決を見据えたまちづくり、UIJターンの促進と転出の抑制(人口減少対策)等)
■地域経済活性化(資金・資源の地域内循環、地域エネルギー産業に牽引された地域経済の成長等)
■雇用の創造
■快適なまちづくり・住環境の構築(低炭素社会の実現等) 構想事業の目的・概要(H27年度策定)

＜構想事業 取組内容＞

平成27年8月鳥取市と鳥取ガスが出資し地域電力会社「(株)とっとり市民電力」を設立

【(株)とっとり市民電力の電源調達】

2016年いかり原太陽光発電所 500kW

鳥取湖陵高校太陽光発電所 49kW

東郷太陽光発電所 1,980kW

2017年パラシオ太陽光発電所 29kW

鳥取県立図書館太陽光発電所 49kW

水素ステーション太陽光発電所 20kW

覚寺おひさま太陽光発電所 200kW

秋里下水処理場バイオマス発電所 200kW

2018年横瀬川小水力発電所 198kW 鳥

取空港太陽光発電所 1,990kW

2020年私都川小水力発電所 152kW



2021 年佐治発電所 5,000kW 加地発電所 1,100kW

修立小学校・国府東小学校・青谷小学校太陽光発電所 122kW

2023 年新可燃物処理施設「リンピアいなば」廃棄物発電所 7,000kW

合計出力約 18,600kW（令和 5 年 12 月現在）

<地域エネルギー会社による生まれた効果>

◆地域内経済循環の活性化経済波及効果 134 億円

（とっとり市民電力事業開始後 8 年間で累計約 93 億円以上が域内に入っている）

◆再エネ電源開発による地元企業受注機会の拡大

◆大手電力会社より安価な電気を提供し地域貢献本市公共施設の契約変更により 7 年間で 7.7 千万円削減 一般家庭向け電力料金は年間 11%（約 29,000 円）削減効果

※大手電力会社規制料金との比較、年間電力使用量 9,500kWh、オール電化住宅（深夜電力プラン）を想定

◆再生可能エネルギー地産地消の促進 R4 年度再エネ調達率 38%（R7 年度までに 70%を目標）

◆雇用の創出（現在従業員 5 名で R6 年に 1 名増員）

<関連事業>

【再エネ電熱導入】道の駅「西いなば気楽里」巻きボイラー 2019 年度～

【EV 普及】EV 充電設備・カーシェアリング事業（2011 年度～）

【省エネ】LED 人口光を活用した植物工場（2013 年度～）

【再エネ導入】鹿野温泉の熱を活用したイチゴスマート農業（2020 年度～）

<今後の展開について>

◆2050 年ゼロカーボンシティ実現、脱炭素ドミノの展開

◆地域脱炭素を通じた中山間地域の再生・持続モデルの構築（人口減少、少子高齢化、地域の衰退等）

◆系統容量も踏まえた地域共生型再エネの導入最大化によるエネルギー資金の流入促進（エネルギー収支△230 億円/年）

◆脱炭素技術や電動モビリティを導入した持続可能な「生活交通システム」の構築

◆依然とした再エネ電源のコスト高による整備の鈍化現状の課題

<スマートエネルギータウン構想（令和 6 年 1 月改定）>

2023 年度（令和 5 年度）に、2030 年度（令和 12 年度）までに脱炭素化と地方創生を同時実現していく環境省の脱炭素先行地域に選定されたことを契機に、さらに次なるエネルギー事業のステージへ向かうため、2024 年（令和 6 年）1 月に改定を行った。

創られた地域エネルギーを地域内で消費する「エネルギーの地産地消」を進め、地域脱炭素の実現、地域内資金循環を促進し、自律的・持続的なまちの構想を目指す。

<脱炭素先行地域事業>

【炭素先行エリアに 2 エリアを選定】

1、若葉台エリア

地域共生型社会再エネの導入による「ゼロカーボンタウン」の実現とエネルギー需給調整システムなどのインフラ最適化。高度化によってまちを進化・再生させ、新しい住民の流入と多様な世代が交流しながら安心して住み続けられるまちを目指す。

【主な取組内容】

- ・ PPA（太陽光発電設備、蓄電池）
- ・ EMS/VPP システム構築・遊休地メガソーラー
- ・ 蓄電池整備・電化モビリティ新交通サービス
- ・ 公立鳥取環境大学（太陽光発電設備、省エネ断熱改修）
- ・ 戸建住宅断熱改修（市補助金）



2、佐治町エリア

「ゼロカーボンバレイ」の実現を通じて、過疎を克服するとともに若葉台との再エネ融通によるローカル版地域循環共生圏構築を目指す。

【主な取組内容】

- ・小水力発電事業
- ・デマンドコミュニティバス、公用車のEV化、EVステーション整備
- ・戸建住宅断熱改修(市補助金)
- ・木質バイオマス熱電併給設備、チップ製造所

<その他の脱炭素先行地域事業>

1、森林資源×スマート農業×脱炭素

豊富な森林資源を有効に活用し、「地域に電力を供給」&「地域の災害耐性強化」&「雇用創出」

佐治町エリアに広がる森林資源を活用し、バイオマス熱電併給設備の導入とスマート農業を実施する。

バイオマス熱電併給設備を導入し、地域おこし協力隊制度(総務省)の活用により林業従事者の育成や、林地残材等を活用したチップ供給を行い、供給される電力と熱をカーボンニュートラル・スマート農業の実現を図る。

2、電動モビリティサービス

電動モビリティの導入により「再エネの利用促進」と「免許返納」「ガソリン高騰」などの地域課題を解

<2050年までのあるべき姿イメージ>

【2030年】

- ・脱炭素先行地域エリアのカーボンニュートラル達成
- ・メガソーラー、小水力、風力など再エネ電源整備推進
- ・電化モビリティの普及による交通インフラの整備推進
- ・木質バイオマス導入による林業が振興され、Jクレジットも進む。木質バイオマス+スマート農業の拡大
- ・地域エネルギー会社の自走

【2040年】

- ・脱炭素ドミノによる他地域での地域脱炭素の促進
- ・ペロブスカイト太陽光発電、全固体電池による自家消費型太陽光発電の拡大
- ・水素製造拡大によるメタネーション、液体合成燃料の製造の推進

【2050年】

- ・本市カーボンニュートラル達成
- ・電化モビリティ運転自動化による誰一人取り残さない交通サービスの確立
- ・エネルギーと食の地産地消による持続可能なまちの実現

〔感想・岡崎市への反映〕

エネルギーの地産地消の推進、地域内資金循環の活発化、地方創生の推進を目的に構想をまとめ、平成27年8月鳥取市と鳥取ガスが出資し地域電力会社「(株)とっとり市民電力」を設立により様々な電源調達を進め大きな経済波及効果を上げている実績は素晴らしい。

特に、省エネ事業で閉校となった小学校を活用した省エネ効果の高いLED人口光による野菜栽培は本市の公共施設の今後の活用で検討するべきと提言したい。

脱炭素先行地域事業において、佐治町エリアでの取り組みの小水力発電事業や木質バイオマス熱電併給設備、チップ製造所の今後の進捗状況には、本市の中山間地域での展開を期待したいため、注目し動向を注視していきたい。

〔同行者の所感〕

加藤 平成27年にスマートエネルギータウン構想を策定し、(株)とっとり市民電力を設立、新ビジネスの展開をしている。太陽光発電の他、下水処理によるバイオマス発電、河川での小水力発電、廃棄物発電など、あらゆるものから発電をしており、供給先は鳥取県及び島根県東部まで網羅している。2023年12月現在の合計出力は18,600kWにもおよび2億円の黒字を出している。再生可能エネルギー地産地消の促進として令和4年の再エネ調達率38%に対し、

令和7年度までに、70%を目標に事業を拡大していくことは可能なのかな？と疑問ものころが、大変素晴らしい計画である。

この地域エネルギー会社による効果としては、地域経済の活性化、雇用の創出、快適なまちづくりの実現など多岐にわたっている。

課題もあるようだが、カーシェアリング事業、LED人工光を活用した植物工場、温泉熱を活用したイチゴスマート農業など、多くの産業に取り入れているところは、やはり今後の展開にも期待が持てる。

本市に於いても、脱炭素宣言をしている以上、あらゆる角度から、調査研究実践に心がけてほしい。

築瀬 とっとり市民電力は、鳥取ガス（民間）90%、鳥取市10%の出資比率とのこと。本市のさくら電力は岡崎市が51%出資の電力会社であり、大きく企業の性質が異なるものである。

一般家庭への電力供給は鳥取ガスのエネトピアでんきを窓口供需契約し、鳥取市内の7%を供給、現在黒字化しているとのこと。本市ではいまだ公共施設中心で一般家庭への電力供給は進んでいないが、このことも会社の性質の違いといえよう。

その鳥取市のスマートエネルギータウン構想の一つとして2013年（12年前）よりEVカーシェアリング事業が実施されている。本市もリースのEV公用車の活用しカーシェアリング事業に乗り出すところであり鳥取市の先進の取組みに興味があった。とくに他の民間事業者との関係が気になっていたところであるが、運営はもともとガソリンスタンドを営業していた企業が行っており、市は充電設備や公共施設のスペースをEV推進のために提供しているだけであるとのこと。

とっとり市民電力といいEVカーシェアリング事業といい、民間の力を大いに活用しており本市も大いに参考にすべきと感じた。

荻野 平成27年度にスマートエネルギータウン構想を策定し、「エネルギーの地産地消の推進」・「地域内資金循環の活発化」・「地方創生の推進」を目標に推進されている。

多くの事業展開をされているが、「再エネルギー電熱導入」・「小水力発電事業」が特有であった。

再エネルギー電熱導入では、太陽光発電と薪ボイラーを組み合わせ「道の駅」で足湯に活用し、薪は地元で製造供給することとしている、また、小水力発電事業では過疎地域の一集落で人口減少し安全・安心な暮らしの確保のために水力発電を進めている。

本市においても、市域の6割が森林地帯であり木材資源は豊富にありこれらを使用して、中山間地域に足湯などを備えた拠点整備を進めてはどうかと思う。

また、乙川流域には小河川など水力発電適地は点在しており、検討の余地はあると考える。